取組：教員の英語力、指導力の向上と校種間連携の推進

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

求められる英語力を有する担当教員の割合、求められる英語力を有する生徒の割合ともに全国平均を下回っている。また、小中連携を行っている割合も全国平均を下回っている。さらに、中学校における「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握等を行っている中学校の割合が非常に低い。多忙感から教員が授業改善など課題に対して十分に取り組むことができていない状況が考えられる。

Plan

■取組計画

- 英語指導パワーアップ講座（教員の英語力、指導力向上研修）の実施
- 小中連携を推進するための指定校区（研修協力校）の指定
- 英語専科教員の指導力向上

■体制

- 外部専門機関（奈良教育大学）との連携
- 県立教育研究所との連携
- 「奈良県英語教育改善連携専門部会」
  教員の資質向上や英語教育改善・充実のために設置

Do

■英語指導パワーアップ講座（小、中、高）

［小・中］年間５回（オンラインでの実施を含む）の全体の研修計画を基に、各参加者が自主研修計画（個人の目標と行動指標・成果指標の設定含む）を作成し、英語力、指導力の向上を目指す。今年度は「指導と評価の一体化」を講座を貫くテーマに設定し、大学教員、県教育委員会指導主事による講義・演習や、参加者が授業（録画）を公開し、大学教員及び県教育委員会指導主事による指導・助言と研究協議を行った。また、第１回の講座においては、小・中合同で実施し、グループ協議を行うなどして校種間連携についても研修を行った。※高校は県費による民間委託研修を実施。

■小中連携の推進（指定校区の指定）

大和高田市立片塩中学校区と平群町立平群中学校区において、持続可能な小中連携のモデルとして域内外に周知するため、連携部会の開催やその内容、校区における英語教育の課題を克服するための方策について研究した。指定した中学校区（研修協力校）に対しては、大学教授や県教育委員会指導主事による研修や指導・助言を行った。

■英語専科教員連絡協議会

英語専科教員としての指導の在り方等について協議し、英語専科教員としての資質向上を図るため、本連絡協議会を年間２回（オンライン１回、参集１回）開催した。うち１回は大学教授を招聘し、「４技能の指導と評価の在り方」をテーマに研修を行った。

Check

①求められる英語力を有する教員の割合　35.3%（R1:36.7%）
②授業における英語担当教員の英語使用状況　47.2%（R1:57.2%）
③求められる英語力を有する生徒の割合　42.1%（R1:42.6%）
④「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の整備状況
設定82.0%（R1:62.1%）公表30.0%（R1:13.6%）把握47.0%（R1:22.3%）
⑤パフォーマンステストの実施状況
スピーキング3.19回（R1:2.87回）ライティング2.71回（R1:1.91回）
⑥小学校と連携している中学校の割合　73.0%（R1:73.8%）

Action

■①、②、③、⑤の結果に対する改善策

- 研修による教員の英語力と指導力の向上（全校種）
- 小６児童、中１～３生徒を対象とした英検ESG、英検IBAの実施

■④の結果に対する改善策

- CAN-DOリストに係る研修の実施（中学校）

■⑥の結果に対する改善策

- 小中連携を推進するための中学校区（研修協力校）の指定

■英語専科教員連絡協議会の開催

成果の普及

■小中連携の取組について、奈良県教育委員会、大和高田市教育委員会、平群町教育委員会、研修協力校等のWebサイトにおいて掲載予定。

奈良県教育委員会のWebサイト

令和３年度 英語教育改善プラン推進事業　～平群町立平群中学校区～

課題

町内3小学校を、専科教員が兼務して指導することで、指導内容やカリキュラムが整えられてきた一方、中学校との接続を意識した指導の必要性や小学校での指導内容を考慮した中学校の指導の必要性を感じた。

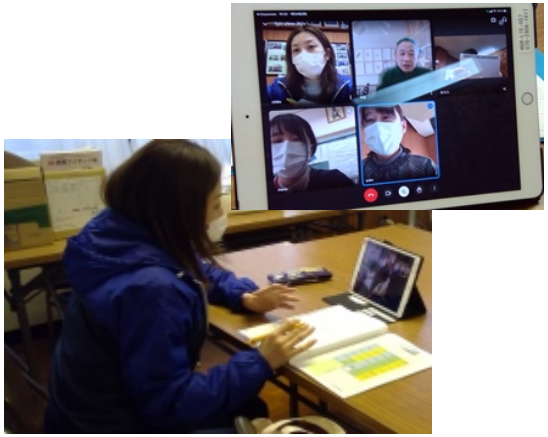
具体的な取組と工夫

■町内小・中学校の児童生徒の実態等の共有
- ・英語専科教員及びALTと、各校の英語担当者との今年度の英語の授業における方向性の確認
- ・小学校での授業内容の交流と中学校での指導の課題の交流

■中学校の授業参観
- ・互いにコミュニケーションを図る授業展開の確認
- ・中学校で重視する英語教育と小学校での英語教育の授業を通したベクトル合わせ
- ・小・中学校それぞれの学習課題について確認

■小中連携をテーマにしたオンライン研修会（講師招聘）
- ・教科書から見た小中接続
- ・評価から見た小中接続

■授業改善に向けた教材・教具の活用法についての研修
- ・書く活動における板書の在り方
- ・授業に効果的な教材・教具の研究と活用方法の工夫・研修



オンラインによる研修

成果

■英語専科教員が小学校第4学年から第6学年の授業を進めるが、担任が指導する小学校第3学年の外国語活動においても、中学校への接続を意識して取り組んでいく必要性を共有できた。

■中学校においてもALTと連携しながら生徒同士のコミュニケーションを大切にした授業が行われていることを実感し、小学校における取組の参考になった。

■令和3年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙「英語の勉強は好きですか」への肯定的な回答が小学校81．0ポイント（全国公立平均63．8ポイント）、中学校64ポイント（同56．7ポイント）とそれぞれ上回っている。

■小中連携をテーマにした研修会では、小学校から中学校への系統性を意識した指導を意識するとともに、課題の設定と評価の在り方についても学んだ。

課題及び改善案

■専科教員による授業は、町内の各小学校の指導においては差のない指導ができる反面、担当に任せきりになってしまうことになる。協議会や研修等を通じて担当の負担感を減らすようにしたい。

■小中の連携は、それぞれの校種で何を大切にするかを知り、課題をそれぞれに設定し互いにそれを生かすような指導をしていく必要がある。

令和３年度 英語教育改善プラン推進事業　～大和高田市立片塩中学校区～

課題

１　小学校から中学校への「学び」のつながりという視点から以下のことが必要である。
　　〇小学校段階での学習到達目標の設定　　〇児童の学習状況の中学校への引き継ぎ
２　中学校区内の市内4小学校間で、学習の進め方や児童の学習状況等の情報交流が必要である。

具体的な取組と工夫

■中学校区４小１中学校の外国語科主任を中心に、交流のための組織を立ち上げ、取組を進めた。
〇研究方針の共有　〇各校の取組について情報交換　〇授業づくり（指導案検討・研究授業・振り返り）

■外国語教育の具体的な指導法と外国語学習における小中連携の在り方について、講師を招聘し研修を行った。

■小学校１校を実践校とし、協働での授業モデルづくりを行った。
〇6月　授業参観　　〇８～１１月　指導案検討・研究授業・振り返り

■取組の評価の指標として、児童が外国語科および外国語活動の学習に対する自己評価をどのように変容させていくかを前期（９月）・後期（１月）にアンケートをとり、実態把握の資料とした。

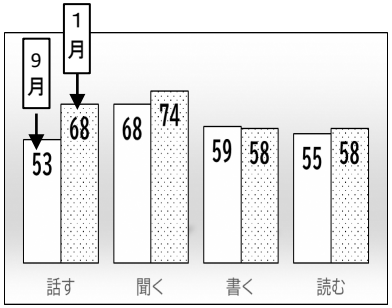
成果

■【小中での学習状況等の交流】
〇子どもの学習意欲や指導のスタイルに小中間で違いを、具体的にとらえることができた。
〇中学校での指導が円滑に接続できるように、小学校間で指導の差が出ないようにする必要性を認識することができた。

■【外国語科担当教員のつながり】
〇小学校間や校種を越えて助言・相談できた。

■【授業モデルの共有】
〇指導法の研修内容を授業づくりに生かせた。

■【児童の変容】
〇コミュニケーションの目的・場面・状況を重要なコンセプトとした授業づくりが、「話す」「聞く」ことへの児童の意欲を高めることにつながった。



単位：%
児童アンケート《どんなことができるようになりましたか。》

課題及び改善案

■中学校区４小１中学校交流のための組織を基盤にさらに取組を積み重ねる。
⇒・言語活動を充実させるための指導法について情報共有する。
・パフォーマンス評価等の評価研修をする。
・「学びのつながり」を意識した学習到達目標を設定するとともに、学習状況の引き継ぎ方法を検討する。

■小学校での授業モデルの一般化と中学校での授業モデルの構築
⇒・授業づくりを行った小学校の授業モデルを小学校間で実践し、拡げる。
・中学校を実践校とし、協働で授業研究を行う。